

(様式 2)

「探究的な学習活動における IT・データサイエンス活用促進事業」報告書

学校名	北海道札幌啓成高等学校
実施日時	令和 5 年 9 月 7 日 (木) 14:25~16:15
講師	( 所 属 ) 株式会社ニトリホールディングス ( 職 ・ 氏 名 ) 執行役員 情報システム改革室 室長 荒井 俊典 様 同 組織戦略・教育改革チーム 杉本 貴弘 様
実施概要	<p>1 ねらい</p> <p>データの収集及び分析等において、実際に企業がどのような視点・方法でデータを収集し、分析しているかについて、具体的事例をもとに講義していただくことで、課題に主体的に取り組む姿勢の醸成のみならず、統計に関する知識・技能やそれに基づく思考力や判断力の育成に寄与する。</p> <p>2 日程</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 1 コマ目 講義 1 (杉本様担当) ・ 演習</li><li>・ 2 コマ目 講義 2 (荒井様担当) ・ 振り返り</li></ul> <p>3 講義、研修等の概要</p> <p>今回の取組は、北海道教育委員会の「S-TEAM 教育推進事業」において、北海道・札幌市・北海道大学・ニトリの間で協定を締結した「みらい IT 人財」の育成に係る四者連携の一環として、株式会社ニトリホールディングスが高校生を対象に「ニトリ出前授業」を行っており、この出前授業を総合的な探究の時間 (Future Vision) で活用したものである。</p> <p>本講義は、「『お、ねだん以上。』のニトリを支える IT・データサイエンス」のテーマのもと、次のとおり行った。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 1 コマ目 ニトリの歴史やビジネスモデルについての説明を受けた後、ニトリの新店舗の出店計画についての講義を受けた。 そして、その演習として北海道内各市町村の人口データをもとに「北海道内にもう 1 店舗出店するならどこにするか」についてグループで話し合い、発表し合うワークショップを行った。</li><li>・ 2 コマ目 1 コマ目の演習について講評をいただいた後、ニトリの IT の歴史に関する講義を受けた。IT やデータサイエンスを導入したことの経緯など、外部からは分からない知見を得ることができた。その後の質疑応答も活発に行われた。</li></ul>

#### 4 成果（生徒・教員の変容及びねらいの達成状況等）

##### 【ねらいの達成状況】

生徒は、振り返りの中で、「ニトリの方々が、データを活用して商品をどの位置に置けば多く売れるのか研究していることに驚いた。」という感想を寄せており、自分達が数学で学んだ「データの分析」の事柄が実社会で大いに活用されていることを実感していた。

また、「データを分析することは、目的と手段がはっきりしていないと難しいと思った。分析の重要性を感じた。」などと、データ活用の「重要性」だけでなく、「活用する側の目的意識と手段の明確化が大切」であることを学び、当初の目的は十分達成できた。

更に、「ニトリの抱える技術が常に進歩しているのを聞き、仕事とは常に進歩するものなのだと思った。」、「普段体験することのない出店計画の演習は、とても貴重な経験でした。ニトリの歴史や計画など、あまり知ることのできない情報が知れてとてもよかった。」とあり、地元の大企業に関する様々な知見を得られたことは、進路学習や郷土愛（故郷に対する誇り）の育成という観点からも成果があった。

##### 【生徒の変容】

生徒からは、「様々なデータを利用して出店計画を立てたことで、統計を活用しながら探究する力が付いた。」、「これからの学びになるような素晴らしい考え方を自分の中に吸収でき、新たな発見があり、とても充実した時間になった。」とあり、今後、探究活動に取り組む態度を身に付けることができたようである。

また、「どのようにして商品の売れ筋を見極めているのか」、「データどおりに売上は出るのか」など、講義後に新たな疑問が湧いてきた生徒もいた。

そして、今後身に付けたいことは何か、という設問に対して、「ピンチがチャンスになるような柔軟な思考力」との回答があり、自らの在り方・生き方を考えさせる契機にもなった。

